

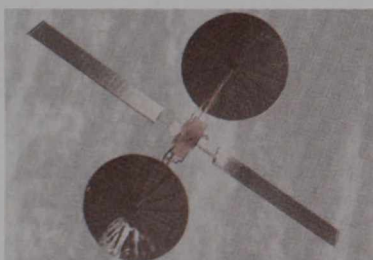
衛星利用の移動体通信事業 カナダの新会社に日本が出資

衛星を利用して自動車や列車、航空機、船舶など移動体との通信を行なう移動体通信事業で、カナダと日本の企業が提携することになった。

カナダの半官半民の通信会社テレサット・カナダとカナダ最大の民間複合企業カナディアン・パシフィックが設立する新会社テレサット・モバイル(略称 TMI)に、伊藤忠商事を中心に日本郵船、西濃運輸など5社からなる企業連合が資本参加する。

資本金は1億カナダドル(約100億円)で、出資比率はテレサット・カナダ50%、カナディアン・パシフィック30%、日本連合20%。

計画では、新会社は3億6,000万カナダドル(約360億円)を投じて、移動体向けの専用衛星を打ち上げ、1993年からカナダ国



打ち上げが予定されている移動体通信衛星。

内と沿岸地域で移動中のトラックや船舶、航空機などを音声やデータで結ぶ通信サービスを開始する。これにより、現在の自動車電話、移動無線システム、あるいは通信衛星から地上局経由の通信システムは、新しい時代を迎えることになる。

TMI では、米国で移動体通信事業を計画しているアメリカン・モバイル・サテライト・コンソーシアムと相互協力契約を結び、米加国境を越えて走るトラックなどへの通信サービスも行なうという。

最古の昆虫化石、カナダ東岸で発見 動物の陸上出現時期を書き直す?

セントローレンス湾河口のガスベ湾でこれまでで最も古い昆虫の化石が発見された。アメリカの科学雑誌「サイエンス」によると、この昆虫はシミの一種。スミソニアン博物館の古生物学者ヒューバー博士が発見、放射性炭素の年代測定法で3億9,000万年以前のものでわかった。

このシミは、これまで最古の昆虫化石とされていたものより1,500万年も古い。現代の一部のシミとよく似ているため、何百万~何千万年にわたって進化した後のシミではないか、と見られている。

これまで動物が海から陸上に上がったの

はデボン紀で、最古の昆虫化石もデボン紀とされているが、上の説が正しいとすると、デボン紀の前、陸上植物が出現したシルル紀(4億2,100万年~4億800万年前)後期には小型の昆虫が陸上に出現したことになる、と同誌は伝えている。(ニューヨーク発時事通信の記事より)

麻薬教育を義務化 オンタリオ州の学校で

「麻薬の悪用を防止するには早期教育が大切」と、オンタリオ州では学校で子供たちに麻薬の危険性を教え込む教育を始めることになった。

手始めに、州内の教師と教育委員を対象に4か月間、州教育省の麻薬教育課程についてのオリエンテーションを行なう。これをもとに、各学校では7年生以上の全生徒に、コカイン、マリファナ、アルコールなどの危険性について教える。

ピーターソン州首相から麻薬問題特別顧問に任命されたケン・ブラック州議員は、麻薬教育は幼稚園から始めるべきだと主張しているが、クリス教育大臣はとりあえず7年生から始め、徐々に対象学年を下げていきたい、としている。オンタリオ州で麻薬教育が義務化されるのは、今回が初めて。



世界初の開閉式ドーム 今年、トロントに完成

世界初の開閉式屋根付き多目的スタジアム「トロント・スカイドーム」が、いよいよ今年、オンタリオ湖畔に立つ世界一高いCNタワーのわきに完成する。

スカイドームにはいろいろな新しい工夫がなされている。例えば4枚の羽根からなる屋根は、面積3万2,000平方メートル、長さ200メートルもあるが、わずか20分で自動的に開閉できる。これで一年中、天候に左右されずに施設が利用できるわけである。

施設は野球、フットボール、大規模なコンサートやトレードショーなどに利用できるようになっているが、席もそれぞれの目的に応じて配置されている。例えばフィールドに設置された1万7,000席は、フルにイベントが見えるように、回転式になって

いる。野球用の5万2,000席はV字形に、フットボール用の5万4,000席はフィールドと平行に並べられている。コンサートなどの場合は7万人まで収容できる。

また、演劇やコンサートで観客との親近感を高めるため、ドームの中に3万5,000人収容の音響空間「スカイテント」を設けることも可能。これに使われる音響幕は半透明で、映写によく適しており、コマース

ル、スポーツ、コンサート、演劇、その他あらゆるパフォーマンスでマルチメディア効果、グラフィック効果あるいは照明効果を上げるのに向いている。簡単に設置できるスカイテントは、大きい催しものの合間に小さいイベントを行うときに便利だ。

さらに、スカイドームの中に350室のホテルがあり、そのうちの70室からは、いながらにしてドーム内で繰り広げられるさまざまなイベントが楽しめる。

スカイドームは、開閉式の屋根とスタジアムの建築設計およびエンジニアリングを建築家ロードレック・ロビー氏と構造エンジニアのマイケル・アレン氏が、細部設計を設計事務所など3社からなるRANコンソーシアムが、スカイドームの施工をエリス・ドン社が、また屋根の施工をドミニオン・ブリッジ・オンタリオ社などが担当している。オーナーはスタジアム・コーポレーション・オブ・オンタリオ社。

RANコンソーシアムによると、スカイドームの魅力は、およそ4万平方メートル

トロント・ドームと東京ドームの比較

	ドーム構造	フィールド面積	内部の有効高さ	収容能力
トロント	4枚羽根・開閉式	14,000㎡	86m	70,000人
東京	空気膜構造	13,000㎡	62m	56,000人

の比較的狭い場所に建設でき、屋根はあらゆる気象条件や地震あるいは運営条件に100年間も耐え、しかも多目的に利用できることにある。

日本でもこの「トロント・スカイドーム」に注目、熊谷組がRANコンソーシアムと、飛鳥建設がエリス・ドン社と技術提携する契約を結んでいる。